

◆生徒によくわかる授業の仕方・スレイ・ピボケイ中学指導

先生の意欲と情熱が生徒を変える。

「数学が出来ない生徒も、数学の授業は嫌いではない」



ライ・ソマリー先生

2019 05 10  
小黒板を使って個別に教える

■授業 ライ・ソマリー先生 中1 数学(90分授業)

個別指導の時間:1人1人の理解度を知る授業

先生が問題を黒板に書く「 $A = -5(B + 8) - 3$ 」Bに「-5」を入れ、生徒各自に解かせる。生徒全員が学校備品の小黒板を持っていて問題を解いている。問題の解き方は(既に教えたので)分かっている(はず)。先生は、小黒板に書いた解答を見て回りながら個別に指導をする。

□ $5 \times 5$ の掛け算の分からない生徒3人(足し算をして答えを書いている)

□ $-5 \times -5 = -25$ とした生徒4人

□ $25 + 8 = 33$ の分からない生徒3人(机の下で指を折って数えている)

数字を入れて問題の解き方を説明する。先生は、「( )の中の計算を先にする」ことを再度教える。先生は、宿題を5問出して終了。

■研究会

○ライ・ソマリー先生の自評:小学校で習ったことが分からない生徒もいる。掛け算九九の分からない生徒や足し算が出来ない生徒もいる。私としても生徒の理解度を把握して授業を進めたいので、このような時間を取っている。分からない生徒も中学に来て勉強する意欲が出てきた。とても嬉しい。

これらの生徒には空き時間や授業外の時間を使って個別に教えている。最近では良くできる生徒も参加している。

○住田の感想:掛け算九九や足し算の分からない生徒も、誰もが授業に参加して分かろうとしている。

「生徒の中には数学は出来ないけれど、数学は嫌いではない。」  
「先生は基本が分かっていない生徒も見捨てない。」

素晴らしいことだ！生徒全員に勉強をする意欲がある。

ソマリー先生の努力と情熱のおかげだ。「教科書を終わらなければならない。授業を早く進めたい。」と言う焦りは、先生誰もが感じている。だが1人1人の理解度を知り個別指導をして、分からせた上で授業を進めるのが一番効率的だ。授業が分からない生徒の指導を計画に組み込んでやって欲しい。

○小林の感想:どの先生もとってもよい授業だった。クメール語はわからないけど授業を見ているのはとっても楽しかった。国語も数学も物理、英語もよかった。石灰等を自分で買って授業したキムリー先生の授業もわかりやすかった。どの先生も授業中の笑顔が素晴らしかった。活動の成果を感じられる。

木陰でグループ別に教えるソマリー先生



2019 06 13

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店  
口座番号(普) 0968555  
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497  
口座名:公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssfc.or.jp/>)しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019 E-mail: [info@ssfc.or.jp](mailto:info@ssfc.or.jp)



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「<http://www.ssfc.or.jp/>」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ព្រឹត្តិបត្រ によにゅむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゅむ通信

2019年5月号 No.17

公益社団法人  
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia  
(SSFC) 代表理事 住田平吉  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町2-44  
第二石坂ビル502  
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019  
E-mail: [info@ssfc.or.jp](mailto:info@ssfc.or.jp)  
ホームページ: <http://www.ssfc.or.jp/>

□ピボケイ中校舎建設《地鎮祭》を行いました

「私は嬉しくてたまらない！SSFCに心から感謝します。私は幸せだ！」



地鎮祭(中央は校長、傘をさしているのはお坊さんの生徒)



コンクリート流して柱を作る

柱の土台の穴の深さを測る

2019年4月13日(土)、スレイピボケイ中学校の校舎建設場所で「地鎮祭」を行いました。

村人代表と学校の先生・生徒代表が参加しました。校舎建設地の中心部にビニールシートを敷き、お供え物を備えた簡単な祭壇を作り、お坊さんの生徒がお経をあげ、参加した人々がお線香をあげて、工事の安全と良い校舎が出来ることを願ってお祈りしました。地鎮祭の仕方は地域によって異なります。地鎮祭は工事の安全と完成した校舎が末永く安全に使えること、この校舎で勉強した生徒が幸せになることを願って行うものです。

■地鎮祭が終わって スレイ・ピボケイ中学トーン・ブンコーン校長喜びを語る

○ブンコーン校長の談話「これで本当に校舎が出来る実感がわいてきた。校舎が建つのが待ち遠しい。毎日、工事の進み具合を見るのが楽しみだ。私は嬉しくて仕方がない。もう一つ嬉しい事は先生たちがよく勉強して授業が上手くなった事だ。授業中の生徒の態度が良くなっている。私は幸せだ。SSFCに心から感謝しています。」

○生徒代表の3年生の話「完成した校舎の1教室が高校の分校になるので、もう20km先の高校(親校)まで行かなくて済みます。とっても嬉しいです。もちろん分校(高校)に行きます。」と話してくれました。

□ポットロン小学校「生徒によくわかる授業の仕方」

授業発表会(8月22日・木)での授業科目が決定した！

■ナウ・ナー校長の話「国や州都の学校の教育レベルと比べたら、ポットロン小のあるチューキリー郡のレベルは低いと言われている。村人は貧しいので教育への関心は低い。生徒の学習意欲も低かった。だが今はSSFCの指導を1年間受け、先生の指導力が上がった。事前の勉強をするのはもちろんのこと、教具を作り生徒に分かるように指導できるようになった。生徒も質問に答え、授業が活発になった。生徒の学力も上がっている。発表会にはそこを見せたい。」

■決定科目の授業

①イエン・スラッ先生・1年生の国語[子音の校正と読み方・意味]②チャン・スライチャン先生・5年生の算数[Kmとmの単位の換算]③ナウ・ナー校長・3年生の図書[物語の読み聞かせ](※ケオ・ソックヤー先生は産休中)

ホームページ: <http://www.ssfc.or.jp/>

## ◆生徒によくわかる授業の仕方・スレイ・ビボケイ中学指導

### ■授業 テック・サブーン先生 中1 国語

(中学で「クメール語の言葉と意味・文章の作り方」を教える)

手を上げた生徒に教科書を読ませて、授業が始まった。「発音はちがうが意味が同じ言葉を自分で考えて、書いてください。」分かった生徒はノートに書く。

□たべます、くいます、めしあがります  
□えらい、すごい、りっぱ。・じまん、ほこる・・・など。  
こうして授業は進み、生徒は全員が真剣に考えた。

生徒に「覚えること、他の人の言うことを聞くこと、考えること」が出来たかを知るため授業のまとめで「市場での買い物」のゲームをして授業は終わった。

### ■研究会

○テック・サブーン先生自評：生徒も積極的に授業に参加して楽しく出来た。事前に準備をよくしたので自信をもって教えられた。「生活に使える言葉」をしっかり教えた。教える言葉はたくさんある。それぞれの使い方を教えた。

○住田の感想：生徒と一体になった良い授業だった。生徒も良く発言し、その発言をひとつひとつ先生が受け止め認めたのが良かった。クメール語は大変難しく小学校ではクメール語の読み方・書き方が中心で、中学で文章の作り方や同音異語などを教える。

今日の授業はそれを丁寧に教えた良い授業だった。クメールが分からない私にも楽しい授業だった。

授業のまとめにやった買い物ゲームも授業の内容と一致して楽しみながら覚えさせることが出来た。先生がいつも笑顔で生徒が安心して授業に集中できた。とても良いことだ。



テック・サブーン先生の授業



先生の説明に聞き入る生徒たち

### ■授業 サオ・キムリー先生 中1 電気について (乾電池と豆電球の点灯のしかた)

学校には、乾電池・ソケット・豆電球が無く、先生は教科書だけで教えなければならない。

教科書にある電池と豆電球・スイッチの配線図を黒板に書き、生徒は、先生の書いた図をノートに写す。先生は、乾電池と豆電球・スイッチの説明をして、どのように配線すれば豆電球の明かりが点くのか、考えさせた。

3人の生徒が黒板に配線図に線をつなげる。

先生は、「豆電球に明かりが点くのは乾電池・スイッチ・豆電球が全て銅線によってつながった時」と説明する。

### ■研究会

○サオ・キムリー先生自評：今日の授業では、乾電池・スイッチ・豆電球の表し方と豆電球が点く配線図を教えた。実物の実験セットが無いので教科書で教えた。生徒は理論では分かったと思う。

○住田の感想：乾電池・スイッチ・豆電球の実験道具が無いので教科書と黒板だけで教えざるを得ない。実験セットがあれば、生徒に興味を持たせて具体的に分らせることが出来る。

先生にも生徒にも気の毒な授業だった。乾電池セット、豆電球・スイッチなどの実験セットを支援してあげたい。

(サオキムリー先生は化学の授業も行います。)

### ■授業 サオ・キムリー先生 中3 化学

難しい授業にも生徒は活発に意見を言い、質問をした。

10の化学記号を黒板に書き、生徒はそれをノートに写す。生徒を10人呼び、問題の答えを黒板に書かせ化学記号の説明をさせる。先生は、解答と化学記号の補足をする。

そして、新たに化学記号の問題を黒板に書き生徒に答えを書かせる。この繰り返しで授業は終わった。

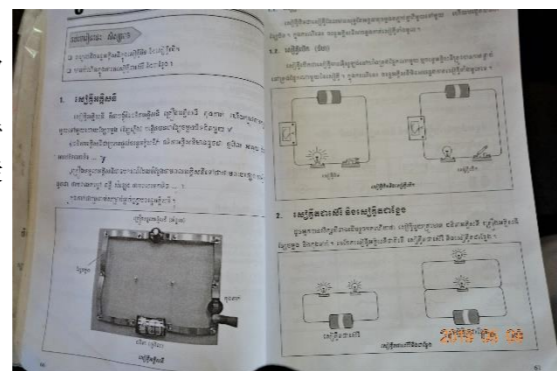
### ■研究会

○キムリー先生の自評：今日の授業は化学の基本を教えた。先週に教えた科学記号の復習をした。生徒から質問も出た。楽しく授業ができた。

○住田の感想：生徒は先生の質問によく答えている。黒板のところに出て、答を書いている生徒に他の生徒は助言をしている。先生は生徒の間を回り笑顔で話しかけている。復習中心の活発な授業だった



教具は教科書だけ・サオ・キムリー先生



教科書には図解があるが、実験をしたい

## ◆生徒によくわかる授業の仕方・スレイ・ビボケイ中学指導

### ■授業 ソックン・リンダ先生 中1 英語「be動詞」

「Your hand on your mouth?」生徒はそれぞれ自分の口を指す。同じように鼻・頭・耳を質問し、生徒は答えた。さらに、and hand plan friend を言い、生徒にスペルを書かせる。次に先生は黒板に「s\_a\_d」を書き\_\_に文字入れさせる。生徒は「t」と「n」を入れ完成させる(stand)。

「Is teacher a she」の単語を黒板に書き、単語を並べ替えて正常文と疑問文を作らせる( She is a teacher. Is she a teacher? )

文の終わりに?マークを付けることを教える。先生は生徒の解答を見て回り、正答者にはノートにスタンプ(☆印)を押す。

生徒はスタンプに大喜びで、手を押しつけて写そうとする。さらに練習問題を3問出し、各自に解かせる。指名された生徒が何人か黒板に答えを書き、答え合わせをして授業終了。

### ■研究会

○リンダ先生自評：いつもの通り全て英語で授業した。生徒は授業に興味を持って集中するが分からない生徒もいるので、ヒントになるカードなどを用意した。発音やスペル・意味を教えた単語は、教科書に出ているものを教えた。今日の授業の中心は、be動詞のある疑問文の形を教えること。生徒は分かったと思う。

○住田の感想：リンダ先生の時間中英語で教える授業は生徒に定着している。生徒が生き生きとして一言も聞き漏らすまいと聞き入っている。生徒に分らせる工夫が至る場面であり、生徒もよく考えて発言も活発である。こういう授業を続けていたら、生徒は英語が楽しくなり覚えるだろう。授業に集中できてとても良いことだ。

### ■授業 リー・ティナッツ先生 中2 生物「呼吸」

生徒は実験に驚き、授業は大いに盛り上がった。

「息をすうところはどこですか」と黒板に書く、生徒は「鼻と口」と答える。「人間は酸素を吸って 二酸化炭素CO2をはいている」ことを教える。

【実験1】生徒6人を黒板の前へ呼び、石灰を入れたボトルをわたして、ストローで息をふき出させる。実験をする生徒は深呼吸をして息を沢山噴き出す。生徒は石灰を入れたボトルがだんだんと白くにごるのを見て驚きの声を上げる。

【実験2】生徒に鏡を配り、息を吹き付けさせて表面が曇ることをわからせる。息には水分があることを知らせる。

先生は、ふたつの実験の結果を文章で模造紙に書いて黒板に貼る。生徒もノートに実験の結果を文章でまとめる。全ての生きものは酸素H2Oを吸って二酸化炭素CO2を吐いている(植物も同じで草木にビニールをかぶせると水滴がつく)。息をすうと空気から酸素H2Oを取る。吸った息は肺から出ます・・・と、息の流れを教える。

肋骨を書いた自作の図を黒板に貼り、肺は肋骨に守られている。体には骨が206本あることを教える。教科書の内臓の図を見せて、肺の説明をする。「肺の形はいつも同じですか?」の質問に、「息をすうと肺は大きくなります」。授業のまとめとして、生徒2人に1枚の紙を配り、質問の答えを書かせる。

「肋骨はどんな骨とつながっていますか?骨の周りには何がありますか?」の質問に、「背骨につながっている。肩の骨につながっている。筋肉がある。」 答え合わせをした後、解答用紙を集める。

### ■研究会

○リー・ティナッツ先生自評：今日の授業をしてみて、先生も勉強が必要なことがよくわかった。空気が人間にとって必要なことを教えた。人間は呼吸をすることによって酸素を吸い二酸化炭素を出すこと。呼吸は肺が行っていること。実験をしてよかった。生徒があんなに驚き興味を持つとは思わなかった。授業に集中してよく理解できたと思う。

○住田の感想：生徒を授業の始めから終わりまで引きつける良い授業だった。吐く息で石灰を白くにごらせる実験は生徒もびっくりしていた。生徒から質問が出たが素晴らしいことだ。実験する時は「実験内容を教え」生徒に「結果の予想」を立てさせるとよい。予想が証明された理由、または外れた理由を考えさせると更に深く考えることが出来るようになる。



英語だけで授業をするリンダ先生



僕褒められたよ。★を3つもらった!



実験の結果を説明するティナッツ先生



よくわかる授業に笑顔の生徒たち